

中村短大家政 ○与田ナヲ子
福岡女大家政 平松 園江

1. 人間は不感蒸泄発汗があるので衣服を衛生的、快的に着るには布の濡れ方、布をとうしての水分移動を知る必要がある。今回は布表面の濡れ易さ（水滴法）と布が水分に接触した場合の蒸発量（接触透湿）布の一端を水につけた場合（吸上高さ）について検討した。

2. 試料は条件の異なる木綿平織2種と塩ビ平織・バーズアイの2種とした。接触透湿は恒温恒湿槽、吸上高さ・水滴法は大気中で測定した。塩ビ布は2種の界面活性剤を1%より10倍希釈し0.001%迄うすめた液を110%吸水乾燥させ表面を濡れやすくした布について検討した。接触透湿は透湿カップに含水ろ紙を入れ、これに布を触れさせ蒸発面積一定にして蒸発量を比較した。ぬれ易さは水滴の消失時間、吸上げ高さは試料下端1cmを水につけ一定時間内の吸上げ高さを測定した。

3. 水滴法により原布は綿密=綿粗>塩ビ生織>塩ビ市販品。界面活性剤処理塩ビ布は何れも綿布と同様ぬれ易くなり何れも1%加工より0.01%まで同じで0.001%は消失時間が長くなり、塩ビ市販品原布の水滴は消失する事はない。塩ビ生織原布は0.001%加工布と同効果である。吸上高さは綿粗>綿密>塩ビ生織>塩ビ市販品で界面活性剤処理布は濃度が濃い物がよいとはいえず適当なのは0.01%で綿粗と同じである。綿でも密なのは綿粗、塩ビ0.01%処理布の半分である。蒸発量は原布では綿粗>綿密>塩ビバーズアイ>塩ビ平織で、塩ビ加工布は塩ビ原布と大差ない。